

学校教育目標	
「夢に向かって　かがやく子」 ○自ら問題を発見し、主体的に考え、意欲的に学び続ける子を育てます。《知》 ○自分を大切にし、他者を思いやって行動ができる優しさを育てます。《徳》 ○運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。《体》 ○夢や目標をもち、まちや社会のために、他者と協働する力を育てます。《公》 ○人とのつながりを大切に、広い視野とともに生きていく力を育てます。《開》	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
＜自分づくりに関する力＞ ＜言語能力＞ ＜心身ともにたくましく生きる力＞	他者を理解する態度・自己を肯定する姿 思いや考えを伝え合う力 目標を設定し、それに向かっていく力 約束やきまりを守る力 基本的な生活習慣
中期取組目標	
子ども一人一人を大切にして学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し自信をもって行動する子を育てます。 ○豊かな感性を育み、明るさと優しさにあふれる温かな学校づくりに努めます。 ○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ○健康な心身を作るための生活習慣の形成と学校生活の約束を大切にする気持ちを育てます。 ○家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かし、社会に開かれた学校づくり、地域から信頼される学校づくりに努めます。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①単元や一単位時間で働かせる見方・考え方や、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをしていく。 ②子どもが問いや問題意識をもち、主体的に学習に取り組むような授業・単元づくりを目指していく。 ③問題や課題に対して自分の考えをもち、子どもたちが協働的に話し合いながら納得解を見出していくような学習場面を取り入れることで、他者と豊かに学び合う素地を養い、重点研究のテーマの実現を目指していく。
担当	学習委員会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
令和7年度の横浜市学力・学習状況調査の結果を分析すると、本校の子どもはほとんどの設問で横浜市の平均を上回る結果となっている。また、学年が上がるにつれて学習の大切さを実感する傾向にある。 (1)教科の分析から 国語科では、文学的な文章や説明的な文章とともに横浜市の平均を上回る結果となっている。しかし、物語全体を通して、登場人物の気持ちの変化を具体的に捉えることや、出来事の順序を捉えることには課題が見られた。 算数科では、ほとんどの領域・内容において横浜市の平均を上回る結果となっている。しかし、図形を構成する要素に着目し、身の回りのものの形を図形として捉えることや、既習内容を日常生活に生かして問題解決することには課題が見られた。 (2)学習意識調査の分析から ・「自分のことが好きですか」「自分にはよいところがあると思いますか」の設問では、約8～9割の子どもが肯定的な回答をしており、自己肯定感の高まりが見られる結果となっている。 ・「自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集めたり話し合ったりしているか」「学習を通して見つけた地域や社会の課題を、自分たちで解決できると思いますか」の設問では、横浜市の平均よりも低い回答結果が見られる。また、「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか」の設問においても、市の平均を下回る結果が見られた。 これらのことから、本校の子どもたちは、与えられた課題に対しては積極的に取り組み、正答を導き出すことができるが、自ら課題を見出したり、他者との協働的な学びを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることを苦手とする子が多い。	自分の思いや考えを大切にし、豊かに学び合う子の育成
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・各学年で教材分析や教材研究、子どもの見とりをすることを通して、子どもが本時の授業や単元を通して、どのようなことを学び、どのような資質・能力を身に付けるのかを明確にして授業づくりに臨むようにしていく。 ・子どもが「不思議だな」「もっと知りたい」「どうしてだろう」と、問いや問題意識をもてるような教材との出会いや問い返し、板書やICTの活用等の手立てを工夫することで、子どもが主体的に学習に取り組むような授業・単元づくりに努める。 ・問題や課題に対して、子どもが自分の考えや根拠をもち、自分の考えを自分の言葉で表現し合うような活動を通して、自分とは異なる他者の考えに出合い、自分の考えが広がったり深まったりするような学習場面をつくり出すようにしていく。 ・図画工作の重点研究においては、研究授業を伴う研究会を行い、それぞれが自身の授業改善に役立てることを通して、授業力の向上を図る。また、重点研究を柱としながら、図画工作科だけではなく他教科や領域においても重点研究テーマの実現を目指していく。 ・各学年において、日々の授業づくりや学年研での情報交換等を通して、温かな学年・学級づくりと子ども理解に努めていく。
下半期	

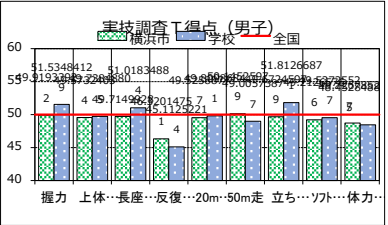
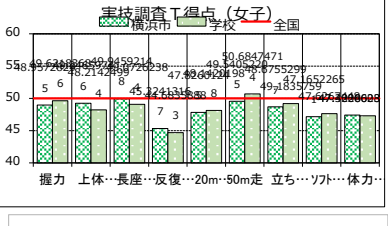
豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①豊かな心の育成を目指して、日常的な学校生活の中で道徳教育の指導を充実していくとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要として子どもの実態に基づいた道徳科の授業改善を図っていく。 ②「ひと」「もの」「こと」とのつながりを大切にした体験的な活動を通して、自分の思いを表現したり、自他のよさを認め合ったりする中で、自己理解や他者理解を深めていくようにする。
担当	児童委員会　道徳部

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態 (学校評価アンケートより)  ・令和7年度のアンケート結果から、約8～9割の児童が「学校は楽しい」「勉強は楽しい」と回答している。 ・学校行事についての設問では、保護者アンケート、児童アンケート共に、「意欲的に取り組んでいる」「楽しい」という回答が多く、数値が大変高い。 ・「困ったときに相談できる友達がいる」と回答した児童の割合が高まったことは、目標としてきた「ひと」「もの」「こと」とのつながりを大切にした活動を多く取り入れた成果であると考ええる。 ・あいさつについては、約8割の児童ができていると答えており、保護者アンケートにおいても「できている」と答えている割合が増加している。引き続き、あいさつに対する意識を高めていくことで、他者を大切にする気持ちを高めていく。 ・本校の特色である「花いっぱい」の学校であることを嬉しく思っている児童は多く、意欲的に活動に取り組む児童が多い。 (2)これまでの学校の取組状況 昨年度の道徳科の研修では、これから求められる特別の教科・道徳として、「考え、議論する道徳」への質的転換を目指した授業づくりへの研修を行った。また、グリーン大作戦等の栽培活動では、たてわりペア学年で協力し合い、異学年交流を進めた。運動会や体験学習、各学年の校外学習等、児童が主体的に取り組む、協力し合って活動する姿が多く見られた。	「ひと」「もの」「こと」とのつながりを大切にした活動を多く取り入れ、自分の思いを表現したり、相手の立場に立った行動を実践したりできるような機会を大切にすることで、自他のよさを認め合うことができるようにしていく。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	【道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・各学年に応じて、挨拶の大切さや意味の理解を深め、進んで挨拶をする意欲や態度を養う。 ・道徳研修会を年間1回以上実施し、道徳の授業づくりについて研修を深め、指導に生かす。 ・子どもが問題意識をもち、道徳的価値について自分事として考えられるような手立てを工夫する。また、授業の中で子どもが自分の思いを自分の言葉で伝えるときにも、互いの考えの違いやよさに気づくことができるような他者との対話や協働的な学びを大切にしていく。 【キャリア教育】夢や希望、目標に向かって子供たちの姿を育成する自分づくり教育 ・異学年交流での活動を通して、集団の中で自分の役割意識を育み、自己有用感が味わえるような活動の充実を図る。 ・学校が主体となり、あざいちサポーターズや外部団体と連携して、様々な教育活動に取り組む、社会との繋がりに関心をもちながら未来への希望がもてるようにする。 【学校行事の充実】 ・体験学習や運動会、各学年の校外学習などを児童の意欲の伸長や連帯感を育む重要な教育活動として位置付けていく。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育科での指導や外遊び等、運動の楽しさを実感できる場を工夫し、体力の向上に努めていく。 ②子どもが主体で計画された運動集会や運動週間を行うなど、楽しく体を動かす機会を設定し日常的に運動に取り組む態度を養う。 ③体育科の学習等では、ICTを効果的に活用し、児童が自己を振り返ったり、教職員が評価に活かしたりして、授業への意欲向上や授業改善を図る。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
  男子の結果をみると握力・長座体前屈・立幅跳びは全国の平均を上回っている。しかし20mシャトルランや反復横跳びなど持久力が必要な科目が横浜市の平均を下回っている。 女子の結果をみると多くの項目が全国平均を下回っている。 以上の結果から、男子は脚力や持久力が向上する運動的な取り組みが必要である。女子は、運動に関わる機会を多くし、楽しんで運動に取り組む態度を	心身の健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	【授業での取り組み】 ・子ども自ら課題を把握し、めあてをもって安全に前向きに学習できるように、教師が運動の特性を踏まえて指導を展開できるようにする。 ・栄養職員や養護教諭と連携を図り、保健や健康に関する学びを深めていく。 【体育安全研修】 ・児童が安全に学習に取り組むことができるように指導の安全性を高めていく。 【体力アップ作戦】 ・運動委員会による体力向上の取組や運動に親しむ機会の確保（縄跳びやしゃっぽり大会等、活動を継続して行う） 【学校保健委員会】 ・養護教諭や栄養職員と連携を図り、児童が生活習慣など、健康な学校生活を送るためのテーマを設定し、各学級が実践的に取り組めるようにする。
下半期	